

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念・目標をいつでも目につくところに貼り、朝礼にて毎朝唱和し、各自の意識を高めるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への参加や地域の催し物に参加している。(盆踊り・クリーン作戦・小学生の体験学習のうけいれ)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談・見学は積極的に随時行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見に関しては、サービス向上に活かすよう管理者を中心に話し合いをしている。(家族から場所がわかりにくいとの意見があり、看板を取り付けるよう検討中である。)		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢者福祉課および地域包括支援センターとの定期会合に出席し情報交換を行なっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム周辺は交通量が多い・工場地帯・川があるなど入居者様が一人で外出するには危険が多い。帰宅願望が強い方・不穏になりやすい方も入居している為、やむおえず施錠をしている。また、利用者に常に目を配りよく観察し拘束をしないケアを行なっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法について学んではいないため、今後その内容の勉強会も実施していきたい。入浴時の全身チェックを行なっている。また、利用者への対応の仕方・スタッフのストレス具合など施設長・主任より観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者に関わる各制度についてはその都度、管理者・主任より説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項は管理者により十分に説明し、理解・納得した上で同意をえている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに必ず家族に声をかけ意見のしやすい環境づくりを心掛けている。管理者を中心にスタッフで話し合い要望を反映させたケア及び環境作りに努めている。また、家族にはその結果を報告するようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的カンファレンスを開催し、スタッフの意見・提案は積極的に取り入れている(行事・業務改善など)		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者・主任は成果や努力に対して評価するような声かけを行なっている。また、産休中のスタッフもおり十分な人員確保が難しい時期もあったが、皆で協力するよう声をかけ時間外勤務や疲労でモチベーションをさげないようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護において経験豊富なスタッフによりの確かな指導・助言を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のグループ内の勉強会や事例検討会は行なっているが、同業者との交流は現在行なわれて折らず、今後のサービスの質の向上の為に検討していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時に本人に直接聴き、入居時まで本人が安心して暮らせるような環境作りに努めている。入居後はゆったりと話せる時間を多く持ち関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談にて詳細に聴き、安心して入居して頂けるようにしている。また、入居後も随時相談業務を行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時・入居前の面談・入居後に得た情報(生活背景など)から全体像をとらえ、必要であればサービスの相談や紹介なども行なっている。(病院紹介・薬局紹介・福祉用具など)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事を共にしたり、洗濯・食器拭きなども一緒に行なっている。また、ゆつくりと話す時間も多とるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の少ない家族には一声掛けたり、利用者の状況報告は常に行なっている。また、病院受診はかならず家族にお願いしご本人の健康面の状況も把握して頂いている。(3ヶ月に1回受診)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に昔の写真を持ってきて頂き、それを見ながらお話をしていただいたり、面会も積極的に受け入れている。居室には思い出の品・写真などを飾りできるかぎり馴染みの生活をしていただけるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが話のきっかけを作ったり、座席配置を工夫している。また、レクやカレンダー作りなどの共同作業も行なっている。人と関わるのが苦手な方にはスタッフが積極的に話を掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	スタッフが話のきっかけを作ったり、座席配置を工夫している。また、レクやカレンダー作りなどの共同作業も行なっている。人と関わるのが苦手な方にはスタッフが積極的に話を掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接本人にきいたり、普段の生活で話や行動からできる限り希望に添った援助をするように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	直接本人にきいたり、普段の生活で話や行動からできる限り希望に添った援助をするように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録を詳細に記載。各勤務で申し送りを行いスタッフ全員で情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向のもと現状を把握しカンファレンスを開き介護計画について話し合っている。全員の意見を反映した上で計画を立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各勤務でスタッフとの関わりを含めた記録を付けている。勤務前には記録を読んだり、申し送りを行い情報の共有・計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の面会時に話をすること、本人については日々の生活の中でニーズを見つけその都度ニーズに対応したサービス提供を心がけている(往診医の受け入れ・受診付き添い、オムツの申請手続き相談、福祉業者との連携)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族の面会時に話をすること、本人については日々の生活の中でニーズを見つけその都度ニーズに対応したサービス提供を心がけている(往診医の受け入れ・受診付き添い、オムツの申請手続き相談、福祉業者との連携)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があれば往診医の受け入れ・付き添いを行なっている。また、かかりつけ医への受診時は、ホームでの状態・経過を看護師が手紙に書き報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しており日々の健康管理を行なっている。また、介護職には看護師より利用者の体調変化を報告するよう指導している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	三郷中央総合病院と医療連携をとっている。日頃から管理者を中心に関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には入居時の面談で、ホームでの対応を説明し、理解・協力して頂いている。また、状況に応じてその都度相談に乗るようにしている。連携病院にも協力してもらい対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成してはいるが、全職員に実践力が身につけていない。外部研修や定期的な勉強会を行なうようにする。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署による火災訓練を行なっている。また、廊下にスプリンクラーを取り付ける予定もあり火災対策をしている。しかし、地震や水害対策はしていないので検討・実施する必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬意を持ち接し、個々の特徴をとらえ対応するよう心掛けている。また、部屋も個室であり好きなように自分の時間を過ごして頂いている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	わかりやすい言葉で話したり、ゆったりとした空間作りをし何でも言いやすい環境作りをしている。また、できるだけ何でも自己決定をして頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者優先で業務を行なうよう心掛けている。(食事や入浴など個々のペースに合わせ希望に添うようにしている)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感のある服装をしていただく・いつも同じ服装にならないよう気をつけている。また、七夕会や外食会では化粧をしおしゃれも楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りを手伝っていただいたり、食事準備(机拭き・食器拭き・おぼん拭きなど)も行なっている。食事は毎日職員も一緒に食べている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は専門の業者に頼み栄養バランスをみている。毎食食事量チェックを行なうことにしている。Dr指示や必要と思われる方には水分チェック表をつけている。また、魚禁止やミキサー食にも対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立度に合わせて、毎食後口腔ケアを行なっている。義歯洗浄の介助も行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼夜共に定時でトイレ誘導を行なっている。また、入居時には排泄チェック表を使用しパターンをつかむようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的にお茶の時間を作ったり、廊下歩行や散歩にて運動不足の解消をしている。(個別対応)看護師の指導により、下剤の調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自立した方には自由に入浴していただく。利用者の希望・状況により柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や状況を考え、日中も休息を促している(食後など)。夜間は寝巻きに着替えていただき、必要な方にはダウンライトを照らすなど安眠して頂けるよう援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルし全職員がチェックできるようにしている。主に常勤の看護師により管理されており、内服の変更や注意の必要な薬についてはその都度看護師より説明をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみやカーテンの開閉、食事の挨拶などその人にあつた役割を持って生活をして頂いている。嗜好品についても家族より自由に持ち込みして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食事会(3回/年)やお花見には出かけた。また、お正月には家族の協力のもと数名が自宅で過ごすことが出来た。今後は、家族面会時などに周辺の散歩を勧める声かけなどの工夫もしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理は難しい為、お小遣い帳をつけ職員が管理している。要望があれば使用できる。(買い物・床屋など)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔保持は徹底している。壁には季節感を感じることでできるような飾り付けをしている。また、思い出の写真にコメントをつけて貼り出している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全室個室であり、テレビなどを持ち込み思い思いの生活をしていただける。三角コーナーや和室も開放しておりいつでも使用していただくことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品物多く部屋に持ってきてもらうようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり・エレベーターを設置。廊下や居室は絨毯を使用している。トイレも3箇所あり自立度に応じて使用していただける。また、弱視の方の居室前には目印となるような物をつけわかりやすくしている。		